第1話：とわの誓い
とわの誓い
負けた音を、
終わりの音にはしない。
NotebookLM

夏の終わりの体育館。
汗と木の匂いが混ざって重かった。
カーテンの隙間から差す夕陽が
床をオレンジに染める。

ブザーッ!!

（あのとき……負けた音、
まだ耳に残ってる。）

NotebookLM

1・2年の県予選。一回戦負け。
一回戦負け。
ベンチに戻ったとき、
みんなの視線が痛かった。

寄り道をやめてまっすぐ練習場へ
向かう。
だれかに褒められるためじゃない。
悔しさを、別の形に変えるため。

NotebookLM

「とわ。君の練習は、ただの頑張りじゃない。チームの目を変えてくれた。頼むぞ」

チームはまだ弱い。けれど、今は〝弱いままでも戦える〟雰囲気があった。

（自分なんかが……）

『次は、逃げない。

NotebookLM

引退前の最後の県予選。
大会前日。

キュッキュッ
キュッ

ターンッ

「みんな、明日、怖がらなくていい」

「怖いなら〝怖い〟って言えばいい。
でも、動きを止めない。
次の一歩だけ考えよう。
絶対に、前の私たちみみたいに終わらせない」

NotebookLM

試合当日。強豪校が相手だと分かった瞬間、
相手のチームカラーが眩しく見えた。

ピーッ！

（自分のミスで流れが止まる。
足がもつれそうになり、呼吸が浅くなる……
手汗で滑りそうな感触。）

NotebookLM

「切り替え！
とわ、前！」
ベンチの空気が変わる。
入るかどうか分からないシュートを、
迷いなく放つ仲間の姿。
いつのまにか〝次の一歩だけ〟が、
チーム全体の合言葉みたいになっている。
TOKYO
TOKYO
NotebookLM

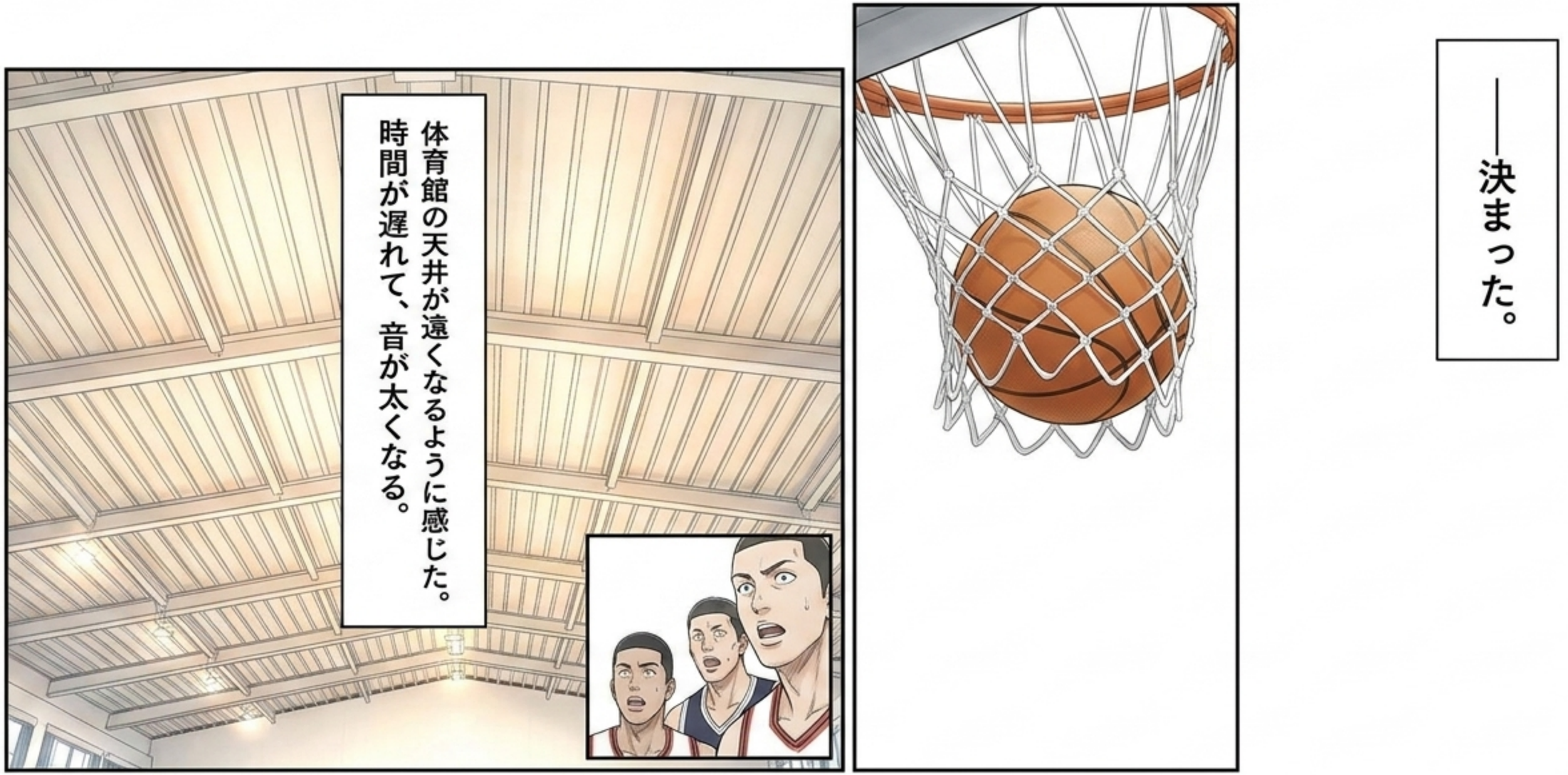
最後の数分、強豪校が一気に詰めてくる。
リバウンドを取ろうと腕を伸ばしたとき、
ばしたとき、とわの肩が少し痛んだ。

（痛い？　うん。）

（でも、今止まったら後悔する！）

カッ

NotebookLM



NotebookLM

「勝った……！」

息を吸っても吸っても足りない。
悔しさが、別の熱に変わっている。

「よく、ここまでやったな……」

好きだっ……！

NotebookLM

悔しさで眠れなかった夜。
努力が報われるなんて
簡単な言葉じゃない。
それでも今、みんなの笑顔が
〝報われた〟〝報われた〟という
という事実になって光っている。
「全国でも、
次の一歩だけ考える」
（悔しさは終わらない。
でも、悔しさは
強くなるためにある。）
NotebookLM